

## 5. 快適な生活環境の整備

自然環境や田園風景と調和の取れた総合的な土地利用計画と、快適な生活空間の創造に努めます。

また、文化的な生活を送るため上・下水道施設の整備を進めます。

トイレの水洗化は、水質浄化の衛生面と文化生活の両面で当然の時代です。

下水道環境の未整備地域については、早急に事業を実施して生活不便の解消を図り早期に全町への普及に努めます。

また、普及率を高めるため、加入促進のための制度の検討を行います。

水資源の確保と安定供給を拡充するため、開発した水源の有効利用を図るとともに、未利用水対策について関係機関と協議・調整・情報交換を行います。

計画的な利用を図り、町内全域での水源確保と供給体制の統一化など、水道事業統合に向けた取り組みを進めます。

また、広域化や耐震対策などの施設整備を促進するとともに、配水管の新設と老朽管の更新、水質調査と改善、上水道集中監視制御装置の設置など、施設の改良・拡張の水道施設の充実に努めます。

そして、水資源の有限性と水の貴重さ及び水資源開発の重要性について町民の関心を高めるため、啓発活動を実施し町内全域で節水に努めます。

## 6. 緑化運動の推進

法勝寺公園をはじめ、町内のさくらを再植栽等の管理を行ない、町民への美化意識を高めるとともに、住民参加の緑化運動や花づくり活動に努めます。

枯れ松を伐採して松の木に替わる樹種の植林、または枯れにくい抵抗性松の植栽などの山林保全を進めます。

また、景観形成・緑化の促進については、予算確保と組織づくりを目指します。



## 7. 河川・ダム湖の活用促進

河川・ダム湖活用促進については、予算確保と組織づくりを検討します。

また、朝鍋ダム周辺の公園整備は、とっとり花回廊と果樹団地、賀祥ダム周辺施設と連携しながら県と協力して進めます。

## 8. 住宅政策の推進

民間活力の導入により、住宅政策を進めます。

土地の有効利用と様々な要求・要望に対応した総合的な住宅政策を進めるため、「住宅基本計画」の策定を検討して魅力ある住宅政策を進め、町営住宅への入居促進など定住人口の増加に努めます。

既存施設の有効的な活用を進めて短期滞在型から長期滞在型の集客への方法を検討し、人口対策と南部町の宣伝効果向上の施策を進めます。

## 9. 若者定住対策の推進

定住促進奨励金制度の継続や、新たな若者定住対策を検討するとともに、「いつまでも安心して暮らせるまちづくり」を目指します。

## 10. 交流連携のまちづくり

近隣市町村との広域的な連携を強めて、共通する地域課題に対応できる体制づくりを進めます。

交流を促進するための施策や「ファンクラブ制度」を検討して子供大使など、子供たちの活動を中心とした交流を進めます。

また、農村の活性化に努めるとともに、豊かな自然環境を活かした「農村滞在型余暇活動（グリーンツーリズム）」での農林業の体験教室など、滞在型・交流型への転換を進めます。

22世紀につなぐための自然・緑の象徴として、緑水湖畔の自然林や森林公園など「100年の森」を整備します。

体験学習施設「森の学校」を核として自然とのふれあいや森林への理解や認識を深めるとともに、森林資源を育成します。

そして、都会からの招待者と地区住民との森林体験活動を通じて都市との交流の輪を広げます。

また、県外町人会等との交流を通じて南部町の宣伝・情報提供と農産物等の販売を進めます。

## 11. 地域間交流の推進

住民が主体となって行う行事や文化を支援して町内・地域内交流の活性化を進めるとともに、町域・県域を越えた国内交流を進めます。

「ふるさとガイドの会」を活用した地域間交流を進めて住民と郷土に関する情報の共有化や、町の特性や資産を活かした観光、イベント情報の交流に努めます。

また、町内の世代間交流を進めるため、既存施設の活用にも努めます。

町内の「福里」や「福成」等の響きのいい名前を活用しての町おこしや、地域の特性を活かした活力ある地域づくりの情報の提供を進め、町外からのイベント参加者等を交流人口としてとらえ、日常的な情報発信を、地域間交流の起爆剤となるよう努めます。

## 12. 国際交流等の推進

環日本海交流を始めとする国際交流を進めます。

町外へ目を向けることは重要であり、特に、若者が国外で様々な経験をすることにより、国際感覚豊かな人材を育てるとともに、国際理解を深められるよう取り組みます。

また、国際交流をより一層進めるため、姉妹提携都市を結ぶことを検討するとともに、国際協力への貢献に努めます。

海外留学生や技術研修生等を受入れて交流を進め、住民と外国人との相互理解を深めるための交流事業や公民館などを活用した地域住民の学習と交流の機会を提供します。

国際交流は継続的に交流を行っていくことが重要であり、今後も引き続き行い、中国などとの交流を視野に入れた新たな地域との交流を模索するとともに、ホームステイの受け入れだけでなく、韓国やオハイオ州を訪問して相互交流を深めます。

